

第1号議案

令和元年度 事業報告

1. 通 常 総 会

第60回通常総会は、令和元年5月24日（金）アルカディア市ヶ谷において開催し、出席者は委任状とも1,579名で、定款第17条に規定する定足数に達した。

定款第15条の定めにより、本総会の議長は会長がこれにあたるとしており、宇治会長を議長とし、議事の審議にあたった。

(1) 議 事

議事録署名人については、定款第19条により、議長および議長が指名する出席者2名以上としており、出席正会員の中から井上 晋氏および堤 忠彦氏の2名が指名され、平成30年度事業報告、同収支決算報告、役員改選はいずれも原案どおり承認議決された。

また、令和元年度事業計画、同収支予算についての報告があり、いずれも了承された。

(2) 名誉会員推挙

池田永司殿、熊谷紳一郎殿が名誉会員に推挙された。

(3) プレストレストコンクリート工学会賞授与

平成30年度（第46回）授賞は、論文賞1件、作品賞5件、技術開発賞2件、施工技術賞3件の計11件である。

○ 論文賞

- | | |
|--|--|
| ● P C グラウトの施工条件に対応した品質管理に関する研究
(総合題目) | 細 野 宏 巳 殿
野 島 昭 二 殿
呉 承 寧 殿
辻 幸 和 殿 |
| (会誌第60巻3号, 60巻5号) | |

○ 作品賞

(土木部門)

- | | |
|--------------|--------------------------|
| ● 生野大橋 | 西日本高速道路(株) 関西支社 殿 |
| ● 小名浜マリナブリッジ | 国土交通省 東北地方整備局 小名浜港湾事務所 殿 |

(建築部門)

- | | |
|--------------------------|----------------|
| ● 三重交通 G スポーツの杜 伊勢 陸上競技場 | 三重県 殿 |
| | (株)安井建築設計事務所 殿 |

清水建設(株)	殿
(株)堀崎組	殿
(株)伊藤工務店	殿
(株)ピーエス三菱	殿

● 平城宮いざない館

国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所 平城分室	殿
(株)松田平田設計	殿
(株)奥村組	殿
オリエンタル白石(株)	殿

(改築・改修部門)

● 長陽大橋ルート of 橋梁補修

国土交通省 九州地方整備局 熊本復興事務所	殿
(株)建設技術研究所	殿
(株)富士ピー・エス	殿
(株)杉本建設	殿
(株)藤本建設工業	殿
(株)肥後建設社	殿
(株)南陽建設	殿

○ 技術開発賞

● 平板型U F C 道路橋床版

阪神高速道路(株)	殿
鹿島建設(株)	殿

● P C 桁を用いた G R S 一体橋梁

(独) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構	殿
(公財) 鉄道総合技術研究所	殿

○ 施工技術賞

● 新名神高速道路 鈴鹿高架橋他 1 橋 (P C 上部工) 工事

中日本高速道路(株) 名古屋支社	殿
(株)ピーエス三菱・(株)富士ピー・エス特定建設工事共同体	殿

● 安威川橋 P C 上部工工事

西日本高速道路(株) 関西支社	殿
三井住友建設(株)	殿

● 国道 4 5 号 夏井高架橋工事

国土交通省 東北地方整備局 三陸国道事務所	殿
(株)復建技術コンサルタント	殿
三井住友・安部日鋼・日本ピーエス特定建設工事共同企業体	殿

以上の賞について、宇治会長より作品賞，技術開発賞および施工技術賞受賞者に賞状と副賞として記念盾がそれぞれ授与された。

2. 理 事 会

通常理事会を10回（8月，2月を除く毎月），臨時理事会を1回（5月）開催した。
議事録要旨は会誌の工学会記事欄に記載しており，省略する。

3. 会誌等の発行

会誌は隔月に6回計21,150部を発行した。

4. 委 員 会

【常設委員会】

(1) 総務委員会

総務委員会を6回開催した。平成31年4月に平成30年度事業報告案ならびに同収支決算案を審議した。6月は役員の職務分担について検討を行った。令和2年1月は，役員人事，名誉会員推挙について検討し，3月は令和2年度事業計画案および同収支予算案を審議した。また，個人正会員の所属分類の集計を行うとともに会員増加推進小委員会の在り方について議論を進めた。

(2) 会誌編集委員会

委員会を11回（8月を除く毎月）開催した。会誌「プレストレストコンクリート」を年度6回発行した。第61巻4号，6号，第62巻2号は特集号とし，それぞれ「建築特集」，「地方公共団体における橋梁・P C構造物の維持管理に向けた取組み」，「建設工事の安全管理」を企画特集した。

(3) シンポジウム実行委員会

委員会を5回，全体会議を1回，総務・広報・学術・現地WGを合計18回開催し，愛知県名古屋市の愛知県産業労働センター（ウインクあいち）における第28回シンポジウム（本工学会設立60周年記念大会）の企画と運営を行った。また，令和3年の開催地を北海道函館市で行うことを決定した。令和元年12月からは，群馬県高崎市のGメッセ群馬で開催する第29回シンポジウムの準備に取りかかった。

(4) P Cサステナビリティ委員会

プレストレストコンクリート工学会賞へサステナビリティの観点を追加する要望について，P C工学会賞選考委員会代表者と意見交換を行った。工学会賞選考過程は部外秘のため委員長のみに対応となった。議論した結果を受けて委員会を1回開催し，サステナビリティの観点を追加することは行わず，アンケート形式で，幅広くサステナビリティに関わる調査を実施することとした。

(5) P C技術規準委員会

令和元年度は，委員会を2回，幹事会を2回開催した。また，昨年度策定したコンクリート構造設計施工規準に関する講習会を東京，大阪で開催した。

1) P C斜張橋・エクストラードード橋設計施工規準改訂小委員会

P C斜張橋・エクストラードード橋設計施工規準改訂小委員会は、委員会を2回、幹事会を6回開催し、改訂方針に関する討議、改訂規準の作成、小委員会内での意見照会を行った。

(6) P C鋼材委員会

工場加工型防食P C鋼材、高強度P C鋼材などの高機能P C鋼材について、種類別にポイントや適用事例などとりまとめた資料に関して、内容を精査するとともに、追加、修正を行った。加えて、P Cケーブルの定着部周辺の防食仕様に焦点をあて、技術規準、規格などの調査を行うとともに、各種定着システムについて、その特徴と防食仕様などの説明および討議がなされた。その他、P C鋼材に関連する国内外の規準類の改定に関して、情報収集を行うとともに、*fib* Commission 5に参画し、国際規準作りに国内意見の反映を図ったことが紹介され、それら規準について討議を行った。

(7) P C技士委員会

委員会を1回、各小委員会を6回開催し、第26回プレストレストコンクリート技士試験に関する諸準備を整え、令和元年10月20日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に試験を実施し、12月3日に合否の判定を行った。

(8) コンクリート構造診断士委員会

委員会を1回、各小委員会ならびに各WGを12回開催した。平成29年度から導入したeラーニングによるコンクリート構造診断技術講習を実施した。第13回コンクリート構造診断士試験を令和元年7月7日（日）に東京、大阪、福岡の3会場で開催し、10月2日に合否の判定を行った。

(9) P C技術講習会委員会

一昨年度よりP C技術講習会小委員会を設置し、講習会のテーマ、講習内容、プログラム案の答申に基づいて十分に審議し決定した。第48回P C技術講習会のテーマは設けないことにした。全国9会場において、各地域の有識者による特別講演のほか6題の講演題目を設定した。

(10) 国際委員会

1) 国際対応小委員会

「P C工学会の国際化を進めるための企画・提言を行うこと、ならびに日本のP C技術を海外へ情報発信すること」を目的に、令和元年度は小委員会を5回開催し、以下の活動を行った。

- ①工学会英文ホームページの更新
- ②海外学協会との連携について検討
- ③日本のP C技術の海外普及策等についての検討

- ・ 規準類の英語化および海外への普及についての検討
- ・ P Cシンポジウムの国際化についての検討
- ④ *fib* Commission 1, *fib* Commission 5に参加
- ⑤ 日伊P C橋維持管理セミナーの開催（2019年11月6日，名古屋）
- ⑥ ベトナムITSTとのワークショップの開催（2019年12月3日～6日，ホーチミン）
- ⑦ P Cシンポジウムの海外からの特別講演者招聘計画および対応
- ⑧ P C技術講習会テキストの作成および講習会講師
- ⑨ 海外文献の抄訳および会誌への投稿（ポルチェヴェーラ高架橋落橋事故に関する論文）

2) 国際活動関係

① *fib* Presidium

2019年9月28日，29日，スペインのマドリッドにある前会長の会社FHECORの事務所で開催されたPresidium（最高幹部会）に春日昭夫理事が出席，2020年2月15日，16日，チェコのプラハ工科大学で開催されたPresidiumに春日昭夫理事が出席した。

② *fib* 総会

2019年5月26日にポーランドのクラクフで開催された総会に，下村 匠常務理事，中村 光理事，二井谷教治理事，春日昭夫理事が出席した。

③ *fib* 理事会

2019年5月25日にポーランドのクラクフで開催された理事会に，下村 匠常務理事，中村 光理事，二井谷教治理事，春日昭夫理事が出席した。

④ *fib* 委員会

2019年4月11日，スイスのジュネーヴで開催されたCommission 1に春日昭夫理事が出席し，2020年2月13日にチェコのプラハ工科大で開催されたCommission 1に春日昭夫理事が出席した。また，2019年5月23日，24日にポーランドのクラクフで，2019年10月4日，5日にスイスのローザンヌで，2019年12月13日，14日に東京でそれぞれ開催された *fib* モデルコード2020の委員会（Commission 10）に春日昭夫理事が副委員長として出席した。

⑤ *fib* シンポジウム

2019年5月27日～29日，ポーランドのクラクフで開催された *fib* シンポジウムに，本工学会は下村 匠常務理事を団長，二羽淳一郎理事を顧問として組織された調査団を後援して会員の便宜を図った。調査団の参加は団長以下25名であった。なお，日本からは27編もの多くの一般講演とポスターセッションによる発表がなされた。

(11) P C工学会賞選考委員会

第47回（令和元年度）プレストレストコンクリート工学会賞選考のため，2回の委員会を開催した。令和2年3月26日開催の第2回目の委員会の討議を経て，論文賞2件，作品賞6件（土木部門3件，建築部門3件，改築・改修部門0件），技術開発賞1件，施工技術賞3件を受賞候補に選出し，これを4月度理事会に答申した。

(12) P Cアーカイブス委員会

委員会を2回、幹事会および3WG(收集整理, システム検討, 原稿企画)を計11回開催した。本工学会のウェブサイトにてP Cアーカイブス収集資料の閲覧システムを構築し、11月より一般公開した。第28回P Cシンポジウム(設立60周年記念大会)において、「P Cアーカイブス～60枚の写真から(P C創生期)～」と題した記念講演を行った。「P Cの先駆者たち(人物編)」および「P Cの先駆者たち(企業編)」の原稿執筆依頼を行い、会誌62巻1号より短期連載「P Cの先駆者たち(人物編)」を開始した。また、次年度開催の第48回P C技術講習会の講演題目に「P Cアーカイブ「第一大戸川橋りょう」」を取り上げ、講習会テキストの執筆を行った。

【公募研究委員会】

(1) P C複合津波防災構造委員会

令和元年度は、委員会を3回、幹事会を3回開催した。津波防災構造物について、久里浜海岸地区および鎌倉海岸地区をモデルケースとして、防潮堤の配置案を作成するとともに、求められる機能を明らかにして、P C防潮堤の試設計および津波の河川遡上を防ぐための水門の設置検討、さらにこれらの概算工事費の積算および概算工期の検討を行った。また、両地区の背後地へのP C津波避難施設の配置案についても検討を行った。最終的にこれまでの3か年にわたる検討結果をとりまとめて、P C複合津波防災構造物の優位性を評価するとともに、P C構造を活用した津波防災に関する提言を行った。

【受託研究委員会】

(1) 連続繊維補強材のP C構造物への適用に関する委員会

連続繊維補強材(F R P)の性能および性能照査方法を明らかにするとともに、当該材料をR C、P C構造物に採用する場合の設計・施工指針を作成することを目的とした委員会であり、令和元年度は委員会を2回、幹事会を4回開催し、規準の作成、F R P品質規格、試験方法について討議を行った。

(2) 既設P Cポストテンション橋の再生・補修・補強検討委員会

既設P Cポストテンション橋のP Cグラウトの再注入工法および補強用の外ケーブルの性能および性能照査方法を明らかにするとともに、当該工法を既設P Cポストテンション橋に採用する場合の設計・施工法について、審議し、技術指針を令和2年度内に作成することを目的に委員会2回、幹事会6回、現地視察1回を開催し、技術指針について討議した。

5. 講習会等事業

(1) 第47回P C技術講習会

第47回P C技術講習会は、「いま求められるP C技術」をテーマとし、令和元年6月4日(火)東京：江東区文化センターを皮切りに、6月6日(木)大阪：ドーンセンター、6月11日(火)広島：広島市西区民文化センター、6月12日(水)高松：ホテルパールガーデン、

6月14日（金）北海道：ホテル札幌ガーデンパレス，6月18日（火）名古屋：ウイंकあいち，6月21日（金）新潟：新潟県自治会館講堂，6月25日（火）仙台：イズミティ21，6月26日（水）福岡：福岡国際会議場，の全国9会場において開催した。参加者は，延べ2,187名であった。

(2) プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム

令和元年11月7日（木）・8日（金）の2日間にわたり，愛知県名古屋市の愛知県産業労働センター（ウイंकあいち）において，「第28回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム—設立60周年記念大会—」を開催した。

P Cアーカイブス委員長の前田晴人氏，ナショナルレポート編集委員長の下村 匠氏，Prof. Alessandro Palemo氏による記念講演と，161題の論文，報告ならびに研究紹介の発表が行われた。また，44団体による技術展示の実施，ワークショップでは3題が報告され，さらには，優秀講演賞17名の表彰を実施した。

参加者は813名で法人正会員，賛助会員のほか，関係諸団体を合わせて53団体から後援があった。

(3) 「コンクリート構造設計施工規準—改訂版—」の発刊に伴うセミナー

コンクリート構造設計施工規準改訂小委員会により，2011年9月に発刊された「コンクリート構造設計施工規準—性能創造型設計—」の改訂版として，*fib* Model Code 2010 の Conceptual Design への対応などを図った「コンクリート構造技術規準—性能創造による設計・施工・保全—」を平成31年3月に策定し，10月に技報堂出版(株)より発刊した。その発刊に伴うセミナーを10月17日（木）東京：アルカディア市ヶ谷，10月31日（木）大阪：建設交流館で開催した。参加者はそれぞれ74名，62名であった。

(4) 「高強度鉄筋緊張P R C構造設計指針(案)・同解説」の発刊に伴うセミナー

平成28年度に終了した公募研究「高強度鉄筋緊張P R Cの研究と設計指針の作成委員会」の成果として，「高強度鉄筋緊張P R C構造設計指針(案)・同解説」を7月に発刊し，その発刊に伴うセミナーを7月24日（水）東京：建築家会館，7月26日（金）大阪：大阪科学技術センターで開催した。参加者はそれぞれ67名，54名であった。指針の発刊部数は280部である。

6. 資格認定事業

(1) プレストレストコンクリート技士制度

1) プレストレストコンクリート技士試験講習会

令和元年度のプレストレストコンクリート技士試験講習会を，令和元年9月9日（月），アルカディア市ヶ谷において開催した。受講者は66名であった。

2) プレストレストコンクリート技士試験

令和元年度のプレストレストコンクリート技士試験を，令和元年10月20日（日）に東京，

大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は296名で、試験の合格者は88名であり、会誌第62巻1号およびホームページに掲載発表した。

3) プレストレストコンクリート技士登録

令和元年度標記試験合格者の登録者は87名で、登録更新者は886名（更新対象者は996名）であった。また、再登録者が27名あり、令和元年度のプレストレストコンクリート技士登録者は合計1,000名となった。その結果、令和元年度末の有資格者（登録者）は5,290名である。

(2) コンクリート構造診断士制度

1) コンクリート構造診断技術講習

コンクリート構造診断士試験に先立ち、受験資格として受講が義務付けられているコンクリート構造診断技術講習（web上でのeラーニング講習）を、3月1日から6月28日の期間、実施した。受講申込者は、202名で、受講修了者は192名であった。

2) コンクリート構造診断士試験

令和元年度のコンクリート構造診断士試験を、令和元年7月7日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は264名で、試験の合格者は72名であり、会誌第61巻6号およびホームページに掲載発表した。

3) コンクリート構造診断士登録

令和元年度新規登録者はコンクリート構造診断士73名であった。コンクリート構造診断士の登録更新者は279名（更新対象者は322名）で、再登録者は1名であった。令和元年度末の有資格者（登録者）はコンクリート構造診断士1,288名、コンクリート構造診断士補3名である。

○事業報告に係る附属明細書について

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

令和2年4月

公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会